家庭数

学校だより

横浜市立洋光台第一小学校

令和４年１月７日発行

1月

１０秒前後の並走に思う

校 長　中村 智

洋一ガーデンには、早くも『菜の花』が美しい黄色の花を咲かせています。厳しい寒さが続く「寒の内」ではありますが、寒が明ける「立春」に向かっていることを感じます。この花の種は、今年度の春に２年生が北公園に図画工作科の学習で行った際に、公園愛護会の方にいただいた菜の花からとれたものです。

今年もお正月恒例の東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）が行われました。往路５区間、復路５区間、各大学から選抜された１０名の選手が、各校の襷（たすき）をつなぐために持てる力を出し切って走る姿に心を打たれます。そして毎年思うことは、各校１０名の選抜ランナーを目指しながら、走ることが叶わなかった部員はどんな気持ちでいるのだろうかということです。

その走ることが叶わなかった部員の中には、当日走る選手に水分を補給する給水担当の部員もいます。『給水』の文字が入ったビブスをつけた部員は、選手に渡すためのペットボトルを手にして、沿道でチームの選手がやってくるのを待ちます。選手が近付いてくるとコースに出て、選手が来ると並走しペットボトルを渡します。選手は走りながらそれを受け取り、水分を口にします。受け渡しながら声をかける給水担当の部員もいます。並走する距離は４，５０メートル、時間は１０秒前後でしょうか。そして、選手が走り去る後ろ姿を見送ります。

給水担当は、選手を目指して努力を続けてきた部員（各チームが許可した大学関係者でもいいようです）がほとんどでしょう。チームによっては来年のない４年生がこれを担うこともあります。数校の大学のホームページを見て部員の数を調べてみましたが、４０名～７０名といったところでした。その中で、選手として箱根駅伝に出場できるのは１０名だけです。そして、選手になれなかった多くの部員はサポートにあたります。

こうやって給水担当をしている部員のわずか１０秒前後の並走の背景には、いろいろな努力や困難、また喜びや悔しさ等があったことでしょう。それとともに、チーム全体で練習し、議論し、そして教えあい、高めあい、励ましあい、チームとして成熟し、この大舞台に立てたのだと思います。

学級担任をしているときは、学級を５、６組に分けてチームをつくり、〇〇大学と子どもたちにチーム名を決めさせ、即席の襷を肩からかけて校舎の周りを走るミニミニ駅伝をやっていました。タイムを測定し、区間賞も決めます。襷をかけて走ると意欲が違います。チームの応援にも力が入ります。

後期後半の１月です。６年生は卒業式まであと４８日、１～５年生は修了式まであと５２日。皆で襷をつなぎあって、各学年、各学級が成熟してゴールテープを切ることができるよう、教職員一同、給水担当のように並走したり、駅伝監督のように指示や励ましの言葉をかけたりしながら、子どもたちの指導、支援にあたります。

保護者の皆様、地域の皆様、学校教育目標にある『ひびきあい かがやく 洋一の子』の育成のため、２０２２年も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。